

早つとに白はく帝てい城じやうを發はつす

李り

白はく

朝あしたに辭じす白はく帝てい彩さい雲うんの問かん

千せん里りの江かう陵りやう一いち日じつして還かえる

両りやう岸がんの猿えん声せい啼ないて住やまざるに

輕けい舟しゆう已すに過ぐぐ万ばん重ちゆうの山やま

【作者】李白(七〇一〜七六二年)盛唐の詩人。字は太白。自ら青蓮居士と号する。世に詩仙と称される。西域・隴西の成紀の人で、

四川で育つ。若くして諸国を漫遊し、後に出仕して、翰林供奉となるが高力士の讒言に遭い、退けられる安史の乱では苦

【語釈】

*白帝…白帝城のこと

*早…時間帶上はやいこと。時期的にはやいこと。

*早発白帝城…朝早くに白帝城の町を出発する。*作者・李白が永王の幕僚となっていたため、永王が謀叛とされたため、罪を得て夜郎にながされたが、途中で赦免され、李白は帰途についた。これは、その時のうきうきとした心情をうたう。

*千里…はるかで多大な距離。

*江陵…「かうりやう」現・湖北省江陵县。白帝城より直線距離で250キロメートル

ほど東の下流に位置している。かつての楚国の国都・郢である。*一日…いちじつ。古来、日が出て日が沈むまでを謂い、朝から夕方までのこと。*還…(行つて)戻ってくること。かえる。

【通釈】

朝早く朝焼け雲の下、白帝城を辞去し、はるかに離れた江陵に、一日の中に戻っていく。兩岸(の山々)では、猿の啼き声がやまないが、軽やかで速い小舟は、すでに幾重にも重なった多くの山々の間を通り過ぎた。